

発行日:2022.10.5
 発行:稚内市教育研究所
 〒097-0012
 稚内市富岡1丁目1番2号 稚内市生涯学習総合
 支援センター(風〜るわっかない内)
 TEL・FAX:0162-73-6386
 E-mail:wak-kenkyujo@abelia.ocn.ne.jp

令和4年度 ICT 活用教育研修講座

学校全体で取り組む1人1台端末の活用 ～授業観・評価観・児童観の転換～



朝倉 一民氏

札幌市立発寒南小学校 教頭
文科省 ICT 活用教育アドバイザー

9月10日(土)、稚内市教育研究所と宗谷教育研修センターの共催で「ICT活用教育研修講座」を対面・オンラインで実施しました。土曜日にもかかわらず、管内の先生方、関係者29名の参加がありました。

始めに、主催者を代表して稚内市教育委員会 細川部長より開催にあたっての挨拶がありました。続いて、「学校全体で取り組む1人1台端末の活用(授業観・評価観・児童観の転換)」と題して、講師の朝倉 一民先生よりご講話を頂きました。講話では、GIGAスクール構想の趣旨、学習指導要領の変遷、現在求められている教育・今後求められる教育に続き、「SAMR(セイマー)モデル(ICTが授業や学習者への影響度を測る尺度)」の段階ごとに、実践事例を多数紹介していただきました。(以下、一部を紹介します。)

- [Substitution 代替]** 現状授業にICT/児童がICTをつかう 例 ①学習プリント・家庭学習→デジタルプリント ②紙もの調査→アンケート集計 ③ノート回収→データで回収 ④観察スケッチ→写真撮影 ⑤鍵盤ハーモニカ→キーボードタップ 等々
- [Augmentation 増強]** ICTで授業効率・効果/児童が効果実感・発見 例 ①空中写真→空間的視点(社会) ②目標を入力→同時編集(特活) ③鉄棒運動撮影→遅延再生 ④動画・タイムシフト→自己調整力(体育) ⑤観察・調査→Googleレンズ素早く正確に(理科) ⑥録画・録音→音読・演奏の客観視(国語・音楽) ⑦プレゼン→表現力・構成力(国語・社会・外国語)等
- [Modification 変容]** 授業が協働的に変容/児童に主体性 例 単元のデザインが変わる=単元のゴール→遠隔交流、プレゼンテーション、ディスカッション、コンテンツなど プロジェクト型学習 等
- [Redefinition 再定義]** カリキュラムの再設計/創造的・革新的視点 例 学校研究にICTを位置づけ、効果を共有→発達段階に適したICT、ICTにおける教科の特性について研究 等

また、学校が一体となった取組を推進するためには、情報カリキュラムを構築することが重要であることや児童生徒が主体的・協働的な学びができるよう「ステレオタイプな授業(知識注入・効率的な一斉授業)」から「プロジェクト型学習(解のない発展性のある課題に取り組むグループで協力し、成果を発表)」への変換、伴って評価観も変換することが求められているとお話がありました。

参加者は、SAMRモデルに照らし自身のICTの利活用段階を客観的に理解するとともに、尺度ごとに事例が多数紹介されたので、実践の具体的なイメージを持つことができ、ICT活用への理解が高まったようです。



細川 教育部長

研修講座参加者の感想を一部抜粋して紹介します!!

- どのような活用方法があるか、学校全体で進めるには、何からスタートすれば良いのか、たくさん具体例を知ることができました。今までのアナログを転換するには勇気もいると思いました。今日のお話を聞き、積極的に取り組んでいきたいと思いました。学びの多い講座となりました。
- ICTをどんどん活用しようとして学校でも呼びかけられていますが、レベルの高いものを求められているようで、何をすればいいのか、子どもたちに合っていないのでは?という気持ちがあり、積極的になっていませんでしたが、情報カリキュラムをしっかり構成すること、SAMRモデルで、ステップアップしていくことが必要だと感じました。まずは道具を代替することから始めようと思いました。
- 遠隔授業に興味がありました。美術教師の人数が減っている中で、自校から管内の美術の先生がいない学校に授業したいと漠然と思っています。まずは、自分自身が遠隔授業を実践してみたいと思いました。様々な仕事の処理能力もICTで速くしていきたいです。また、個別指導にICTを導入し、子どもと保護者の願いを実現していきたいと思いました。

- ICTと言われても、何からどうやって使っていけばいいのか困っていましたが、段階を分けてお話していただいたので、この先、どう進めていくかを整理することができました。学校に戻り、どの先生でも活用に踏み出せるように、カリキュラムから考えていこうと思います。あとは、オンライン授業をしても子どもたちに残っていかないことが心配です。(今の私たちでは)
- 昨年まで、学校がICT事業の実践校で、宗谷の他地域と比べてはすすんでいる方かと思いますが、自分自身についてはついていけておらず、「デジタル化がすすんでいるけど本当にいいのかわからないのか、大丈夫なのか…」と否定的な部分が多くありました。しかし、今日お話を聞かせていただき、「デジタルへの適応も大事だし、アナログより効果的なことには活用すべきだな。」と改めて考え直すことが出来ました。帰って学校の先生方と相談しながら授業観の見直しをすすめていきたいと思っています。
- 現在1年生の担任をしていますが、子どもたちのことを考えながらお話を聞いていました。「これならできる」「これはチャレンジしてみよう」と思わせてもらえる大変実践的内容で勉強になりました。月曜からさっそくやってみようと思います。学校としてできることもイメージできるようにしてきたので、何をどのように行っていくか、整理していきたいと思っています。
- お話がとてもわかりやすかったです。具体的な実践がたくさん聞けました。できそうなものからとりくんでいきます。おすすめのサイトやアプリ一覧などがあるとすぐに活用できると思います。
- すぐにできそうなもの、少し考えてからのものなどありましたが、いろいろな使い方を学ぶことができ勉強になりました。児童の実態に合わせて、また「何のために?」を意識しながら学校全体で進めていくことが大事だと改めて思いました。

初任者紹介コーナー

稚内中学校



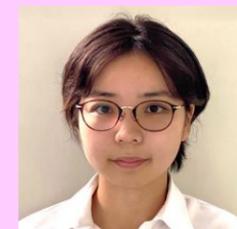
えぐちたいが 江口太雅先生

理科

- ①採用、赴任後の率直な感想を聞かせてください。
最北の環境、地域の特性を生かした授業を行っていきたくて思っていました。赴任後、日の長さの違いや鹿の多さに驚きました。
- ②現場で嬉しかったことや感動したことは何ですか?
生徒に当たり前だと感じる現象がどうして起こるのか疑問を投げかけたときに、真剣に考え自分なりの言葉で説明しようと頑張っていたことです。
- ③趣味や好きなこと、特技を教えてください。
好きなことは、ゲームや寝ること。特技はドラムができることです。
- ④これからの学校生活や授業(仕事)に向けての抱負や決意、目指す学校職員像を教えてください。
今の時代にあう授業展開や生徒への対応など、日々の中で自分なりのやり方を見つけ、停滞することなく精進していきます。また、自分の経験を生徒に還元していきたいと考えています。



稚内中学校



あさひいくえ 朝日郁絵先生

英語

- ①採用、赴任後の率直な感想を聞かせてください。
稚内は訪れたことのない土地だったので、着任が楽しみでした。授業をたくさん持たせてもらっているのが、毎日たくさん勉強させてもらっています。
- ②現場で嬉しかったことや感動したことは何ですか?
自分が考えた英語のアクティビティ等で、生徒が盛り上がりくれた時は、とても嬉しいです。
- ③趣味や好きなこと、特技を教えてください。
授業づくりに追われていて、趣味と呼べるものがあまりないのですが、スポーツは得意なので、今はバスケットボールの審判の資格取得を目指しています。
- ④これからの学校生活や授業(仕事)に向けての抱負や決意、目指す学校職員像を教えてください。
生徒が、英語が楽しいと思えるような授業ができるよう常に、学び続けていきたいです。

